抗生物質の止血機構に及ぼす影響 I. 基礎的檢制

飯 H 関西医科大学内科学第一牌座(指導:安永幸二郎教授)

(昭和62年4月7日受付)

抗生物質の血小板凝集能の抑制は古くから報告されており、血小板の膜への影響が推定されてい た。抗生物質の血小板要等能、血小板表面除性荷質、血小板粘着能に及ぼす影響を in vitro および in vivo において検討した。

in vitro ではヒト南小板における Latamoxef (LMOX) (終海摩 200~1,000 ug/ml). Tobramycin (TOB) (終邊療 5~50 µg/ml) およびこれらの併用の血小板要集能、血小板表面除性荷電に及ぼす 影響を測定した。LMOX は 1,000 µg/ml ではじめて adenosine-diphosphate (ADP) 聚集を抑制 し、特に一次審集の抑制が強く認められた。 collagen 審集にはすべての濃度において影響を認めた かった。LMOX (1,000 μg/ml) は血小板表面陰性荷電を増大させ ADP 凝集の抑制と相関した。 BAUMGARTNER 法による m小板粘着能の測定 では、LMOX (1,000 µg/ml)+TOB (50 µg/ml) で わずかに "Thrombus" (血栓形成) の抑制を認めた。in vivo においては 雄の家兎に LMOX あ るいは Ticarcillin(TIPC) 400 mg/kg/day を1日1回7日間連続投与した。いずれも ADP 凝集 の有意な抑制と collagen 農集にわずかな抑制を認め、血小板表面陰性荷電は有意に増大した。 β -ラ クタム剤は血小板の膜表面に非特異的に結合して、特に ADP 凝集を抑制すると考えられた。

抗生物質の出血傾向に関する研究は古くから報告され ており、1947 年すでに FLEMING1) はペニシリンの血液 凝固能への影響を報告している。血小板については1970 年 McClures が Carbenicillin (CBPC) による出血値 向の症例を報告し、ADP 要集の 低下 を 初めて 指摘 し た。その後、ベニシリン製剤による血小板機集能に関す る研究があいついで報告されたが***7)。 その 作用機序は 明確ではなかった。1983 年 NEU® は LMOX, CBPC, TIPC など構造式中に カルボキシル基 をも つ 抗生物質 (Fig. 1) は、 血小板の膝に結合して器準能を抑制するの ではないかと述べた。著者は今回、抗生物質の血小板機 集修、血小板表面除性荷質、血小板粘着能に及ぼす影響 を in vitro および in vivo で検討したのでその成績の 概要を報告する。

I. 材料および方法

A. in vitro の実験 1) 血小板器集能

正常人男子 10 名から 21 G 針を用いプラスチック注 射器にて採血した。3.8% クエン酸ナトリウム 1/10 容量加血液を 700g にて 8 分 遠沈 し、多血小板血漿 (platelet rich plasma: PRP) を作製した。 さらにそ の沈斎を 2,000g にて 10 分間遠沈 して乏血小板血漿

(platelet poor plasma: PPP) を作製した。PRP 180 µl に生理食塩水で溶解した抗生物質20 al. あるいは対照の

Fig. 1 Antibiotics with a carboxyl group

TIPC

CBPC

carboxyl

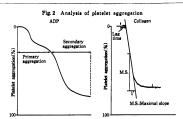


Table 1 Effects of antibiotics on human-platelet aggregation (in vitro

...

	Tabl	e 1 Effects	of antibiotics	on human-p	atelet aggreg	ation (in viti	ro)	(%)
	ADP (15 min.)		ADP (60 min.)		Collagen (15 min.)		Collagen (60 min.)	
	8 µM	2μΜ	8 μM	4 μM	4 μg/ml	1 µg/ml	4 μg/ml	1 μg/ml
Control	66.7±13.3	34.8± 7.9	34.2± 4.9	30.0±12.3	81.6± 4.9	75.6±11.5	75.5± 7.3	71.3±11.8
LMOX 200	64.4±17.6	31.8±10.6	37.6± 6.0	25.0±12.8	80.4± 6.4	73.0±14.1	73.6±13.7	71.7± 8.6
Control	80.7±16.8	16.5± 9.6	44.4± 6.0	33.0± 6.7				
LMOX 400	74.3±10.9	14.5± 9.2	44.7± 7.2	28.3± 3.8				
Control	83.7±14.7	17.3±10.1	43.3± 6.1	34.3± 6.0				
LMOX 800	67.7± 5.7	14.7±11.0	39.9± 6.0	30.7± 8.1				
Control	73.3± 9.3	24.9± 6.9	36.6± 8.3	25.4± 5.9	75.3±11.9	76.0± 5.5	81.3± 9.0	53.8±23.6
LMOX 1,000	59.0±14.9	20.1± 4.6	29.0± 7.6	22.1± 9.1	77.0±10.8	75.6± 9.6	76.8±17.3	32.3±29.4
Control	67.6±10.2	28.0±10.8	30.0± 7.6	25.6± 8.9	81.3± 6.3	77.7± 8.7	79.3± 3.2	76.3± 9.0
TOB 50	72.8±13.4	29.0±11.8	30.3± 8.5	29.0±10.8	84.7± 5.7	77.3±10.0	82.0± 3.2	77.3± 7.5
Control	57.3±11.9	31.7± 6.7	34.8± 4.7	19.8± 6.4	72.7±13.8	67.3±12.7	70.3±13.4	$\overline{}$
LMOX 200 TOB 50	57.3± 8.7	29.7± 8.5	31.5± 6.2	20.0± 6.6	73.7±14.0	65.3±13.6	70.3±12.9	
Control	80.0± 8.2	33.8±13.8	35.8± 7.6	23.0± 5.4	82.0± 4.5	85.0± 8.8	83.5±11.1	76.7± 4.7
LMOX 1,000 TOB 50	70.7±20.0	24.8±12.5	26.0± 5.9°	14.8± 2.9	80.0± 3.6	82.8±10.5	81.5± 5.9	64.7± 7.5

Data represent mean ± SD, n=10

* 0.01<P≤0.05. ** P≤0.01

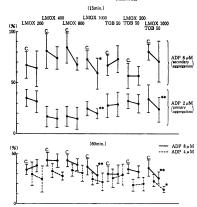
場合には生理食塩水 20 μ を新加し終濃度が、LMOX は 50~1,000 mg/ml, TOB は5~50 mg/ml になるように 回覧とた。そして37℃ 15分 あらいは60分 finceは50と したのち、血小板模集能を測定した。測定は HEMATRA-CER 1 (二光・イオサイエンスと) を用い BORN の方 去*にて測定した。ADP は Sigma 社長の collagen は Holm 社製を用いた。ADP 機製は84、2、2 LMC col lagen 聚集は 8, 4, 2, 1 µg/ml の各4 濃度で行ない、5 分間の最大聚集 (maximal aggregation: MA) および最 大領斜 (maximal slope: MS) で検討した (Fig. 2)。

2) 血小板表面除件荷電

PRP を 1% EDTA を含む生理食塩水にて2回洗浄 し、洗浄血小板を作製した。杉浦研究所社製の細胞電気 氷動度測定顕微鏡装置を用いて、1 神体につき 25℃ に

Fig. 3 Effects of antibiotics on human-platelet aggregation (in vitro)

C : Control *0.01<P≤0.05. **P≤0.01 mean +SD



て 25 個の血小板の泳動時間を測定し、その平均値より 血小板表面除件荷置 (electrophoretic mobility: E.P. M.) を下記の式より計算した。

- E. P. M. = $M/T \times \pi a^2/IR$ u/sec/V/cm
- M: 泳動距離, T: 泳動時間, I: 泳動電流, α:泳動管の半径、R:メジウムの泳動度。
- 3) 血小板软姜能
- 血小板粘着能は BAUMGARTNER 法10分一部改変(1)し て測定した。家兎の腹部動脈内に Swan-Ganz catheter を挿入しバルーンにて血管内皮細胞を剝離したのち 3~ 5mm 大の血管片を作製した。この血管片を反転して、 perfusion chamber に装着し、3.8% クエン酸ナトリウ ム 1/10 容量加血液を 150 ml/分、37°C、10 分間灌流 した。次にこの血管片を透過電顕用に固定、包埋して約 1mm の切片に切り、トルイジンプルーで染色したのち 光学顕微鏡にて 観察した。 micrometer を用い、 10 µm 間隔に区分1. "Naked" (血小板の全く付着していたい 内皮下組織面), "Contact" (接触血小板), "Adhesion"

(粘着血小板), "Thrombus" (血栓形成:高さ 5 µm 以 上の血小板凝集塊) に分類し、計 1,000 区画におけるそ れらの百分率を計算した。

B. in vivo の実験

体重 2.5~3.5 kg の錐の家栗を用いた。LMOX ある いは TIPC の 40 mg/kg/day(n=4) または 400 mg/kg /day(n=10)を1日1回経静脈的に7日間投与したのち, 家兎の carotid artery より 採血し血小板凝集能および E.P.M. を測定した。ADP 凝集は 10, 5, 2, 1 µM, collagen 凝集は 10, 5, 2, 1 µg/ml の各 4 濃度にて検討 1.た。E.P.M. はヒト血小板と同様に洗浄血小板を作製 し測定した。血中濃度は検定菌として LMOX の場合は E. coli ATCC-7437 を、TIPC の場合は P. aeruginosa NCTC 10490 を用いた band culture bioassay12) にて測 定1.た。抗生物質 1g を 5 cc の生理食塩水にて溶解し 5分間で注入しヘパリン処理した注射器にて経時的(5 分, 10 分, 30 分, 60 分, 180 分) に採血した。血中濃 度は7日目(投与終了日)に測定し、血小板聚集能と

Fig. 4 Effects of antibiotics on human-platelet E. P. M. (in vitro)

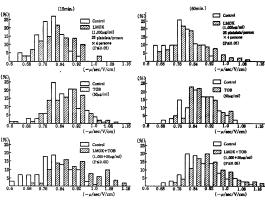


Table 2 Effects of antibiotics on human-platelet E.P.M. (in nitro)

		(-μ/sec/V/cm)		
	15 min.	60 min.		
Control	0.7973±0.017	0.7984±0.046		
LMOX 200	0.8125±0.011	0.8140±0.029		
Control	0.8003±0.005	0.7915±0.008		
LMOX 1,000	0.8081±0.016	0.7900±0.027		
Control	0.9350±0.093	0.955±0.079		
TOB 50	0.9438±0.091	0.955±0.072		
Control	0.8300±0.069	0.8653±0.057		
LMOX 200 TOB 50	0.8465±0.067	0.8583±0.053		
Control	0.904±0.061	0.909±0.052		
LMOX 1,000 TOB 50	0.9163±0.054	0.9085±0.078		

Data represent mean ±SD, n=100

E. P. M. は8日目(投与終了翌日)に測定した。検定は E.P.M. は WILCOXON の検定を用い、他は t 検定を用 いた。

II. A. in vitro の実験

1) 而小板羅集能

抗生物質の単独では、ADP 器集に対して LMOX は 200~800 µg/mi では対照と差がなく。1,000 µg/ml にて はじめて抑制を示した (Table 1, Fig. 3)。TOB は 50 ug/mi で ADP, collagen 凝集ともに抑制を認めたかっ た。抗生物質の併用では ADP 凝集に対して LMOX (200 µg/ml) + TOB(50 µg/ml) では抑制がたく、LMOX (1,000 µg/ml)+TOB (50 µg/ml) で抑制を示した。 ADP 凝集における抗生物質の incubation 時間への影 響をみると、incubation 15 分では二次要集より一次概 集でより強い抑制が認められた。60 分の incubation で は一次要集しか認められなかったが、ほぼ同様の抑制が 認められた。collagen 凝集では、LMOX、TOB の単独。 併用のいずれについてもすべての適度で抑制が認められ なかった。Table 1, Fig. 3 には代表的な過度を示した

²⁵ platelets/person×4 persons

653



	Naked (%)	Contact (%)	Adhesion (%)	Thrombus (%)
Control (n=10)	26.1±3.2	4.4±1.8	61.5±4.5	8.1±2.0
LMOX 1,000 (n=4)	26.4±4.7	7.1±2.4	59.5±4.3	7.1±2.8
TOB 50 (n=4)	24.9±5.7	5.6±2.9	62.7±8.3	6.8±2.0
LMOX 1.000 TOB 50 (n=3)	27.6±1.8	6.5±3.4	61.0±4.7	5.1±0.9

Data represent mean ± SD

Fig. 5 Effects of antibiotics on human-platelet adhesion to the subendothelium by BAUMGARTNER's method (in vitro)

L: LMOX 1,000µg/ml C: Control T: TOB 50ag/ml L+T: LMOX(1,000ag m) 1+TOB(50ag m1)

(the bars in each figure indicate 5 µm)

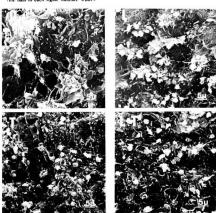


Table 4 Effects of antibiotics on platelet aggregation in rabbits (in vivo)

	ADP				Collagen					
					10 µg/ml			5,µg/ml		
	10 µM	5 µM	2 μΜ	ì μM	M.A.	M.S.	lag time	M.A.	M.S.	lag time
Control (n=10)	55.1± 9.2	50.8±12.5	43.2±14.3	38.4 ± 18.9	68.7± 9.1	62.6 ± 12.8	93.9±18.3	65.3±10.5	51.2±15.3	126.0±49.6
LMOX 40 (n=4)	48.8± 3.5	44.2± 2.2	37.8± 4.8	25.3±15.6	75.0± 5.8	68.0± 9.9	58.0± 9.0	67.0± 4.1	55.0 ± 18.0	102.0±25.5
TIPC 40	54.0±11.4	47.3± 9.1	32.8 ± 12.7	18.3±15.7	70.0± 7.2	54.8±14.5	81.0±17.3	65.5± 5.8	45.5± 5.2	138.0±44.4
LMOX 400 (n=10)	32.7 ± 11.7	28.6± 9.8	23.2± 8.8	11.0± 6.1	62.3±11.2	50.7 ± 13.5	66.0±23.5	55.8±11.6	43.5±14.2	112.9±52.0
TIPC 400 (n=10)	36.6 ± 12.4	30.7±12.8	23.7±11.7	11.4± 9.1	66.2± 9.1	49.0±13.9	91.2±77.7	56.0±12.3	39.9±15.0	146.4±77.7

Data represent mean ± SD

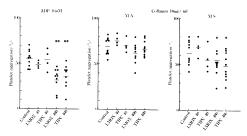
LMOX 40: LMOX 40 mg/kg/day, iv×7 days, LMOX 400: LMOX 400 mg/kg/day, iv×7 days

TIPC 40: TIPC 40 mg/kg/day, iv×7 days, TIPC 400: TIPC 400 mg/kg/day, iv×7 days

* 0.01<P≤0.05, ** P≤0.01

Fig. 6 Effects of antibiotics on platelet aggregation in rabbits (in vivo)

LMOX 40 (LMOX 40 mg kg day, iv z 7 days LMOX 40 0 LMOX 40 mg kg day, iv z 7 days THC 40 (THC 40 mg kg day, iv z 7 days THC 40 0 THC 40 mg kg day, iv z 7 days * 0.01 \(2 \) Pz 0.05, *** Pz 0.01



が、他の濃度でもほぼ同様の傾向を示した。

2) 血小板表面陰性荷電

LMOX は 200~800 µg/ml の濃度では 15 分, 60 分 の incubation のいずれでも E.P.M. に影響を認めなかったが、1,000 µg/ml では 15 分, 60 分の incubation ともに有意に E.P.M. を増大させた (P<0,05) (Table 2. Fig. 4)。TOB は 50 //g/ml の濃度で 15 分, 60 分の incubation のいずれも E. P. M. に影響を与え なかった。

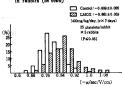
3) 血小板粘着能

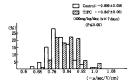
BAUMGARTNER 法によるウサギ 大動脈血管に対する 血小板粘着能の検討では、LMOX 1,000 μg/ml, TOB 50 _{µg/ml} のそれぞれの単数では影響が認められたかった。 LMOX (1,000 µg/ml) +TOB (50 µg/ml) の 併用 で は "Adhesion" (結着血小板) には影響を認めず, "Thrombus" (血を形成) をわずか に 抑制した のみ であった (Table 3, Fig. 5)。

B. in vivo の実験

LMOX あるいは TIPC を 40 mg/kg/day または 400 mg/kg/day を1日1回7日間投与した。 40 mg/kg/day

Fig. 7 Effects of antibiotics on platelet E. P. M. in rabbits (in vivo)





7 日間投与等では ADP 濃美、collagen 濃美ともに影響 を認めたかった。400 mg/kg/day 7 目間投与ではLMOX 材、TIPC 新いずれる ADP 濃美のいずれの濃度におい ても常度た抑制が認められた (P-CO.05)。collagen 濃美 では maximal agregation には遅れが認められたかっ たが、maximal slope で検討すると抑能が認められた。 Table 4, Fig. 6 には代表的た過度を示したが、他の濃度 でも同意の傾向を示した。

LMOX 400 mg/kg/day 7日間投与群, TIPC 投与 400 mg/kg/day 7日間投与群それぞれで E.P.M. の有 意た増大を認めた (P<0.05) (Fig.7)。

血中濃度は5分にてピータを示し、特に LMOX 400 mg/kg/day 投与時には $1,257\pm527~\mu$ g/ml と高値を示した (Table 5)。

III. * *

McClure の研究以来、抗生物質による血小板聚集能 の抑制は、in vitro、in vivo で数多く報告されてい るもつはもつか。

動物実験では大に 750~1,000 mg/kg/24 hr の CBPC あるいは TIPC を投与したところ ADP 無果は本意に 抑動を認め、collagen 無果はかかに抑制を認めたと解 告されている³。また BANG ら⁵⁰は normal volunteer に LMOX 12g/day を7日間投与したところ、3日目より ADP 無果の抑制を認め中止3日日に回復がみられたと 報告している。

1983 年 NEU[®] は抗生物質による血小板機集の抑制は ある種の合成ペニッリンと LMOX に報告所があいこと からよれい。6 色色 しくは7 位化 ルルボキンル基をつ 抗生物質は血小板の膜に結合して凝集能を抑制するので はないめと述べた。ルラクタム剤の血小板振発能の抑制 を比較すると、ne triothis。ne notation。in triothis。ne notationis notationis networks netwo

Lile 5. Diames acceptantian of antibiation in mabble

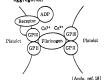
	Table 5 Pla	(µg/ml)			
	5 min.	15 min.	30 min.	60 min.	180 min.
LMOX 40 (n=2)	184.5	142.5	85	43.5	
TIPC 40 (n=2)	162.0	68.0	34	3	
LMOX 400 (n=5)	1,257±527	762±299	660±297	533±322	1.48±0.46
TIPC 400 (n=5)	780±221	604±163	496±223	296±89.4	

LMOX 40 : LMOX 40 mg/kg/day, iv×7 days

LMOX 400: LMOX 400 mg/kg/day, iv×7 days

TIPC 40 : TIPC 40 mg/kg/day, iv×7 days TIPC 400 : TIPC 400 mg/kg/day, iv×7 days

Fig. 8 Diagram of ADP-induced platelet aggregation



GP II : glycoprotein II, GP III : glycoprotein III

ても LMOX の血小板乗業館の抑制が強いと報告されて いる。しかし、カルボキシル基をもたない抗生物質にも 血小板乗業能の抑制は認められ、カルボキシル基の存在 が血小板にいかに作用しているかについてはまだ結論が 得られていない。

本研究では、in vitro においては LMOX は 1,000 gg/ ml の濃度ではじめて ADP 聚集を抑制し、特に一次聚 参の前的が強く認められたが、collagen 聚集の抑制は認 められたかった。家児に LMOX または、TIPC を 40 mg/kg/day あるいは 400 mg/kg/day 7 日間投与したと ころ、40 mg/kg/day 投与群では聚集能には抑制は認められたかいが 400 mg/kg/day 投与群では ADP 選集の抑制を認め、 collagen 凝集では maximal aggregation より設置にそ の変化が表わられる maximal aggregation より設置にそ

本研究の結果を含め、現在までの報告例を合わせて考えると、in vivo では in vitro より低濃度で凝集を抑制することから、抗生物質そのものではなく代謝産物が凝集能を抑制するのではないかという意見もあるⁿ。

ADP による血小板機能に下ix 8 のように考えられて いる¹¹⁰。血小板表面は熱性荷電をもっており互いに反発 し合っている。由上¹⁰¹は、E.P.M.の増大と ADP の 一次機能は相関するが ADP の二次機能や collagen 養 来とは相関したかったと 総合している。本研究でも ADP 機能の 即割が認められた in vitro での LMOX 1,000 pg/ml つ速度、in vitro での 400 mg/kg/day 7 El 間の砂塩でライナ E.P.M.の 両針大部級らもれた。

aminoglycoside は細胞膜表面のリン脂質と結合し細 胞膜のリン脂質の組成の変化をおこすという報告がある ため²⁰. 血小板の膜への影響を考えて TOB を用いて凝 集能を検討したが、50 µg/ml の濃度でも影響を認めなか った。

血小板影響的の検査法は数量あるが""、東京の監督を 用いた BAUMGARTNER 法市業を生作に近い機業とさ れている。BAUMGARTNER 法において LMOX 1,000 µg/ml, TOB 80µg/ml のそれぞれの単独では"Adhesion" (精量血小板)、Thrombus" (血栓形度)、にはとが展り 響を捏めたかった。LMOX (1,000 µg/ml) +TOB (50 µg/ml) の時用でわずかに "Thrombus" (血栓形度) か 抑制された。CAZENAYE" 6, in piro 立血小板機を抑 割する高速度でも、Penicillin G はコラーゲン影響には 影響したかったと確としている。

血小板の除性荷電は表面のシアル酸によると考えられている¹⁸。血小板に Neuraminidase を作用させ、シア ル酸を除去してもコラーゲン粘着には影響しなかったと いう報告があり^{52.40}。 陰性荷電は血小板粘着には影響し ないと考えられている。

実際に出血傾向が発現した症例で血小板数、プロトロンビン時間(prothrombin time: PT)、甚性化態分トロンビン時間(prothrombin time: PT)、 技能化態分ト・ルボラスチン解的(activated partial thromboplastin time: APTT)はどの施設でも測定されているが、血小板乗集能に一般の電放ではルーチンの検査として行な力れていない。しかし、LMOX 投手中に出血傾向を示し、血小板板、PT、APTT に正常で出血時間の延長より血小板板集能の抑制と判断される症例も報告されている****

るちに血小板系と凝固水に通常は独立しているが、最 熱のに立るいに影響して作用しビタミンK体存性の凝固 関子に血小板の膜のリン間質上で活性化されるといわれ ている™。このため血小板の膜を解すするが生物質は二 次的にどタミンKをかした薬園に血液性影響をよっ 可能性も考えられ、抗生物質使用時には血小板系、凝固 系のいずれの出血傾向にも注意する必要があると思われ た。

本論文の要旨は第32 回日本化学療法学会総会 (1984 年),第33 回日本化学療法学会総会 (1985 年),第34 回日本化学療法学会西日本支部総会 (1986 年),14 th International Congress of Chemotherapy (1985 年) において発表した。

銭を終えるにあたりご推導を賜わりました思朝安永幸 二郎教授、故 両本腰子助教授に探査なる謝意を表する とともに、本研究に際してご協力いただきました前原教 信持士、関策紛史課師をはじめ医局員各員に感謝いたし ます。

文

- FLEMING, A. & E. W. FISH: Influence of penicillin on the coagulation of blood. Brit. Med. J. 2: 242~243, 1947
- McClure, P. D.; J. G. Casserly, C. Monster & D. Crozier: Carbenicillin-induced bleeding disorder. Lancet II: 1307~1308, 1970
- CAZENAVE, J. P.; M. A. PACKHAM, M. A. GUC-CIONE & J. F. MUSTARED: Effect of penicillin G on platelet aggregation, release, and Adherence to collagen. Proc. Soc. Exp. Biol. N. Y.) 142: 159-166. 1973
- 4) BROWN, C. H.; M. W. BRADSHAW & E. A. NATEL-SON: Defective platelet function following the administration of penicillin compounds. Blood 47: 949-956. 1976
- JONSON, G. J.; G. H. R. RAO & J. G. WHITE: Platelet dysfunction induced by parenteral carbenicillin and ticarcillin. Am. J. Path. 91:85-106. 1978
- 6) 上田 泰,他:抗生剤の副作用にかんする研究-広域合成 penicillin 剤の血液薬因能におよばす 影響について一。Chemotherapy 27:149~150, 1979
- SATTIL, S. J.; J. S. BENNET, M. McDONOUGH & J. TURNBULL: Carbenicillin and penicillin G inhibit platelet function in vitro by impairing the interaction of agonists with the platelet surface. J. Clin. Invest. 65: 329-337, 1980
 NEI, H. C.; Adverse effect of new cephalo-
- NEU, H. C.: Adverse effect of new cephalosporins. Ann. Intern. Med. 98:415~416, 1983

- BORN, G. V. R.: Aggregation of blood platelets by adenosine diphosphate and reversal. Nature 194: 927~929. 1962
- BAUMGARTNER, H. R. & C. HAUDENSCHILD: Adhesion of platelet to subendothelium. Ann. N. Y. Acad. Sci. 201: 22~36. 1972
- 高山 進,他:抗腫瘍剤の血小板に及ぼす影響
 Daunorubicin と Doxorubicin の血小板粘着能と形態に与える影響について。 Blood & Vessel 15:409~416. 1984
- 大久保 福:抗生物質の測定,その意義と実際。 内科宝面 2:906~912, 1956
- 間瀬勘史,他:各種抗生剤の血小板楽集能におよ ぼす影響。Chemotherapy 29:366~367, 1981
- 14) BANG, N.U.; S.S. TESSLER, R.O. HEINREICH, C. A. MARKS & L. E. MATTLER: Effect of moxelactem on blood coagulation and platelet function. Rev. Infect. Dis. 4: S546-554,
- 15) ANDRASSY, K.; J. KODERSCH, S. FRITZ & E. RITZ: New beta-lactam antibiotics and hemorrhagic diathesis: Comparison of moxalactam and cefotaxime. Clin. Ther. 6: 34-41, 1983
- 16) HENRICH, D.: R. WEINNEL & S. SANTOSO: β-Lactam antibiotics inhibit fibrinogen binding to human platelets in vitro: A model for platelet alteration in vivo. Recent advances in chemotherapy, antimicrobial section 3, pp. 2611—2612, University of Tokyo press, 1985 170 沙川藤介, de: 沈生物質上血小炭素能。Chemo-
- therapy 35: 252, 1987 18) 安藤泰彦、渡辺藩明、池田廣夫:フェブリノーゲ
- 18) 安藤泰彦,渡辺清明, 池田康夫:フィブリノーゲンと血小板楽集。医学のあゆみ127:pp.70~75, 1983
- TANOUE, K.; S. M. JUNG, I. ISOHISA, N. YAMA-MOTO & H. YAMAZAKI: The role of surface charge in platelet function. Acta Hematol. JPN. 45:1391~1400, 1982
- 20) 田中信夫:アミノ配糖体の薬効・薬理。アミノ配糖体薬(編集:上田 泰),南江堂,東京,pp.33 ~43,1985
- AL-MONDHIRY, H.; J.O. BALLARD & V. Mc-GARVEY: Fibrinogen interaction with human platelets, effect of other coagulation factors, prostaglandins and platelet inhibitors. Thromb. Res. 31: 415-426, 1983
- NAKANO, T.; A. TERAWAKI & H. ARITA: Effect of beta-lactam antibiotics on rat platelets. J. Pharmacobio-Dyn. 9: s129, 1986
- 23) 関無勘史:コラーゲン線様に対する血小板粘養の 検査学的研究: I. コラーゲン線様への血小板粘 着測定法の 基礎的研究。 関西医大誌 38:145~ 159, 1986
- GREENBERG, J.; M. A. PACKHAM, J. P. CAZE-NAVE, H. J. REIMERS & J. F. MUSTARD: Effect

- on platelet function of removal platelet sialic acid by neuraminidase. Lab. Invest, 32: 476~484, 1975
- 25) WEITERAMP, M. R. & R. C. ABER: Prolonged bleeding times and bleeding diathesis associated with moxelectam administration. IAMA 249: 69-71, 1983
- 26) FISHMAN, L. & W. R. MARSH: Prolonged bleeding times associated with moxalactam administration. Neurosurgery 14: 735~736, 1094
- 27) SUTTIE, J. W. & C. M. JAKSON: Prothrombin structure, activation, and biosynthesis. Physiol. Rev. 57: 1~70, 1977

EFFECTS OF ANTIBIOTICS ON HEMOSTATIC MECHANISMS

I. FUNDAMENTAL STUDIES

YUBE IIDA

First Department of Internal Medicine, Kansai Medical University

There have been numerous reports that penicillin compounds in large doses inhibit platelet aggregation. It has been suggested that antibiotics with a carboxyl group, such as carbenicillin (CBPC), ticarcillin (TIPC) and latamoset (LMOX), inhibit platelet aggregation by coating the platelet membrane. The platelet surface carries a negative charge, and the platelets there by repel each other. We studied the effects of antibiotics on platelet aggregation, electrophoretic mobility (E.P.M.), and platelet adhesiveness, both in wire on ali in wire.

in vitro study

The effects of the antibiotics, LMOX (200~1,000 µg/ml) and tobramycin (TOB) (5~50 µg/ml) and their combination on platelet function was studied. LMOX suppressed ADP-induced human platelet aggregation, especially primary aggregation, at 1,000 µg/ml, but not at lower doses. However, TOB (50 µg/ml) did not suppress platelet aggregation. Even at high doses, both these antibiotics did not suppress collagen-induced platelet aggregation. LMOX (1,000 µg/ml) raised E.P.M. compared with countrol, while ADP-induced primary aggregation had a negative correlation with E.P.M.

These antibiotics were found to have no effect on platelet adherence to the subendothelium of rabbit aorts when examined by BAUMGARTNER's method. Thrombus formation was also slightly reduced by the combination of LMOX+TOB (1,000-1,50 ng/ml).

2) in vivo study

LMOX or TIPC (intravenously, 400 mg/kg/day for 7 days) significantly suppressed ADP-induced platelet aggregation, and slightly suppressed collagen-induced platelet aggregation. These antibiotics raised E.P.M. compared with the controls

The platele aggregation system and the coagulation system may possibly influence each other. Since vitamin K-dependent clotting factors (Π, W, K, X) activate the platelet surface, β-lactams which inhibit ADP-induced platelet aggregation by nonspecific coating of platelet membranes may affect the vitamin K-dependent clotting system.